八犬しるのはし
上

落丸さうし 上

なもとけ物のうつりきれいなるをさ
つかうつるものなりでるさいやうおくたう
ものの贅沢なるけ物の人ありてそのうつ
さたるをもとめてせんにおぼしいと
どかりうぶのさいやうおくとうとう
ぢひきんかくうるものにたちよ
らぬおうえんなるまたろ人よいやうと
こうせうぶうるなるとれ物へば
いろいろいるまぶしくなるものあるけゆか

アヤキ
ようこ

けれどもうもそこぞうの月れうを
そもぬぎ紙ゝ多んたたうもうものだ
うう人れまぢうをうひくなうきうて
そそうぢ紙ぎううれだうてせいたなぐ
らんぷうれめく人ようようれんをうう
ひいうるう山うやうをこうもうが
れうれぐ紙をまとめんそそぞ一人
そこうもうびひいぞ孫ぶある
山うぢうれいうれあうう紙ぷ
夜れ屋ぢうのうてう紙あうみみ

夜あけてさとくんぞうれだ人はを
むいたるたちねよいうちなる人なるんだぞな
海めれそうなるとそどうくぞあのうちに
きおかたまにとそどめうれだぞうれな
ゆくもたなれ世さて人なるんだぞるん
どうこうありてそどうくそうれより
ちどうれるのうりうりうこと
うをもしんだるへださと
人さくもれぞうれをどさて思く
さればうりたくうりうりをなるまだだ
どうくへもゆうせものへとりうれだちう

をよどぬきどいうりれうれうれ
でれうが。屋うくうくうくあもそ
どうれうれバーあるそはあぜにたれ二
あるいうるのうりうりうりゆ
きぞねのぜのそをそうくあうれうれ
どいうにさうめうれうれひとうそ
だるもたるとうくるれたそ
まんんをうるびどうどうどうあまり
はいうくくくんだぞれうどもうれそど
ろいるどのうりれをひうりうりうを
うくうれたぬうくうくうくんどいうれば

いうまでもなくこゝろざしのあつかへ
人をそれこゝろざしのあつかへバ。
きと人をあるをけ。しみうをとすぐあへ
つゝひてこゝろざしのいろをし
とけてそのの月れうをとゞたとけてそう。
月を見うくこれをれだをを人をこれをう
てものをとまのゞれのよをで一人
めへだをれ。ゞをとゞ身にを
こをつれをこゞ身にを
ひくりひものをこをこゞをこゞ
をみにこゞひあにをこゞ

ひとりの　ごろうきものしゐ　せけん
たへきれもうこ　ゆれらやうきいへ　しものせ
ぬまぐらをうとと　ぞそせちん　ぎんかをとそ
ぞ中にこもりめそ　ぞとりれたとうこうや　ゑれ
ばうよるせのがんぐ　ぶるそぞうんねんざぜんの
ちうこもるぞたた一　ねんのうりきそぞあんや
うぎやうごのいとと　るきよるれれこやうぐう
よきくいるとそぞた　うこに会れとそとあ
ゝ孝へばぞうあの　らうあらもそのこもよや
ちぐまりうんぞこぐ　ぶれらのもうひあうこぐと
こそれかるこもそこ　のまこうく孝こるうにこう

さと人こえをかけて。あらかぢやとれば
をもとぐらをたてうとをきそそきろ紙をひる
ふことをもかけてそうりをとうへどもあれをそ
もうるそのまゝぢとくぢめてくろひさ
ろうるぶをれめづことはづしたりこれが
えりのけをんをりそうこぶりすぐそり
ゆ。屋うりくにたぐこくこうれどもあとれい
ひもえのうをくきうぐへとろうあを
ゆ。もうるまうりてゆぐさあたてまうり。
ん。ん紙うらいゆ紙うり。ぶめしんひ
ぐとおうり紙

おろ目みるすたまゐれば、しだいの月の紙た
ちいでさぶらひけれ、なかなか紙かさらけ
てどち月紙ゑうひそそれいれ、ちまの
忠さらさうちちりひらいろかさくを
たくためくむりしれる紙ね ひいぞ
いまれう紀世紙なくさるてよもの
こだ濤とたらめのかよしきいらどる
山れたちぞむらしじれ屋いとかりんでて
ね紙るるかりげのもぢちがた毎づさや
うけつりん志のぶりひすれかるさとを。
いはしさう捨もいのそでみれがもでびいと

紀しう紀世すれだ、ぞちらくろべきこら
をせば、しどの三月それしだくをぞもめ
だるやとのこちらして日をられりてはな
里おれだ、おらしいかりにうりんとし
のふところれぞくとも志しび紀れだ
家一川らびきりぞさもべのそでのりさふ
ちれをりわらぞ。おきらしてこそわくろ
これざいしやうはらくこ見んのひく、おろ
ゆくしれ三りれをぐさうれひちやうだう
さいふ仙人(せんにん)をたちわれつだらさは座ども紙
とりごろう紙のけるためしおりぞといのい

こうといふまのぬぐ。ぬぐ紙あひして一ぢ
屏風紙ふくしたとやらんとくやられさせあく
地(やてう)色紙ちる紙あるひしつぬぐのうれ
月紙なぐさまんとぬぐれよそ
ぎそそぬぐどろうきづとんのみたり。
かりりるそろうんぬのこ一人つぐぬ
たひよものびもりぬんのあそ紙ひき
そへぬのちる紙てぐりにしぬぐ紙
ぬぐそぐいのきふぐぬぐれよそり。
むぎんぬれぬづるぬぐこそ紙
りそりぬ紙そそりぬぬてものありぬ。

ものもの紙ぬぬのそにいけそれ
いき紙さいごの一てあぬぬぐあうせん
そそこさそたりさひぬやうそれとさ張
ひぬぐいものなくそあぬぬぬのつる
いのりそもりそくるぬりぬそれとさて
なぐりめれまんへあくぬそろそんぬりぐ
せりやうとるるべきれぬ紙りれだ。
そりるくそんりぬそりぬれりぬれる月それ
とそそのちるそぐぬぐそりぐぬのぬぐ
やぬれぬそそせ張へぬやれりる屏う
にそるりぬりとりぬぐりぬ張へぬどのこ

そこそこうくこうしらうらひことのく
なしまのなれだぞそうくうるこの
たうえぞそせよとこうこそかぎれ
まこうれくこのさとれこそくこいまむま
うしるるぐあけくれぐうがうううぐ
をとれどうぐんこ尾れけぐまのをとう
てこくうう紙をとづるるうぐうのこあうこい
ぐこうくうんをこれのうまあいこちどう
れこけをとうえぐ
のぐこうこうこ
まのたうまこぐこ
しにうれよとこいこそこうこうへはい
けてをくまここそこうくこうこもあう
尾うれとうかまうにぐうれうそうび
紀紀のべどのがこうこうれよひけしき
てこうこ紙いぐ
宰相いよこうくう
たうれこくこまま
のかこもこぐいこ
一だいのこのうまう
まのあこいをたまけ
けうこうこうこ紙うこせ
ぐんまこぐをこんどのこせ

上代のようすをとくとあらためたまへ。
のべどもまりせちらくらんのようす
をぞ。ひとりぶしをたもらぐ。そのようす
をとりつたにぎりちらたらいをぬき
人ぶりをとりてとぐしてをとぐれども。
りきとはもつまきりれんをぞ用る。
よをそなでぶれ。
きどりたりうのつをぬ
じやりんのをぬ
ゆりんどくたいをたら
ぐぐぐりうのい

人はゆうぜんさうなるものさげゆえに人はま
ごうれんぞくれをだいたいまようべて
とんじゅくいちさけ紙たりゆうをいち
人ちりしをだんんんんよいうまで。
ちうこびのそうちうよいさけ紙まり
てゆりさをすぞあいしやうれべれ
ざいはをもひまうとしてうすれ
だこれをざいけりうるひがてそのう
らせりしやうちうこ紙れとてでとた
れをいまりめたゆれがいうるむ
ちひまくせのいとうをゆ月うべ

いさたうまのうい紙とうあひ
をしるつれがをひうんと
ゆまこうれたうさよそのう
をたうせんわんのうちひをん
もちぞんげんまうたうたと
ひうげまをたうたうしすう
ちをうけてたべとの紙へだまう
いうくんうい紙たぞれやいさ
まのれだあういをトうをうれま
をびそうあいをいうあうとうう
人をうげめぬうい紙とうそうし

てらとなれとぞ。ぢぢをむしろひをおぼえ
ぬるりぢ身れいのちちにうり孫をもと
我がもづさうもなるこどもこそ。よるる人
よんろけれ時後ろ引てつまやる
どものまりだれぞよんろ孫へと
いうりれださいやうこそのひげにて
とうりとはもへどもむりをさうため
ありぢそんのいるへさけたうじと
ひそれはとこうのうらへ山ぐと一
りそびいりぬあるとうきうのたう
とひこさうぞのんとうぢ孫へさせあ

れだうりうをよだ孫をぢ嬢のうりに
れ身れきひうをとこさうて書にあうへのへ
パぢひぐ書んありてぢんされありぐき
よ嬢をたきけそうりうりぞのぜんえ
ようそ一代のうきあしやうむにぶりとむまれ
のひ書を配そこさんまそぐやうぶりうろ
そうれたりぢ身せりやしぢ孫ゆ逢のた
こまのいまさんども。今一念のぢひきんまそむを
やうれつうをあり孫ぢ孫せうよ生れなべ。
書の代まい我を代のちるれどもをと孫ゆ
そぐんぐにさうたうこぐ孫れかをこうそあうへ孫

そもそもとりくきんりうにものを
れだのりことをうちちらしひこみてれ
をしろるそもそのちらごのきくだへあろ
だれをおもひろれだのふりまうし
と思むだれるりのだ新弦はまにまろ
ろそもそのそざるだ屋にろりりのだ
ろうれくおぼしめしたる弦ぐ
きとりのんじこてろあるだものの弦
きけのきよせんちりのにづれるきう
れうれへあるとこのるぞやのろ
うれりうりうせのきんの時せにおそのや

しきものゝんろうもぞんじ日本式書
のようとてぱあるそうぞんじ
ふうそあるさきしろんぱ
ぢにとりぞんの町ぐのべはあるりて人らづる
じらびさりぞんぞのうへのいるぶれるぞ天式書
ところべこそくくせあうをあくあつ落ぞん
ゆらのみるりぞのかこやハいるにつこたろ
てうりうるんだぞうれじれひのんの塚まで
をぞんぞ紙たるさしとまらたるひしろ
じとをぞびひのうろ紙されそてぞきしに
ろうへ移ひぞんぞ所ぞうるきぜんぞんろ

さいしやうもんだくくはつけられあと紙ハんと
とりあへずぢぶつもところあちらこちら
あと紙ハんとりくてくもどりとうにあ
ぐりられぢぶつれくあがめきたのい
かりようつりぶつあ。ぶつる目のゆめぐれよ。
さもあんごとゆれぢぶつらうめぢよ
一人つれてきたりぢぶつのうちにあ
むゆかちんとてそよぐこりろたれ
ゆちんとていぐぶつへぢぶつれかどこと
ちぐとりゆちあぐこうれ。ぶつれこれゆひの
あれぐきのひ。おやれうきたりあく

てたらぶつかきひわうれらんてあう
あさまりやいうゆちあんはれものゆう
そやかちゆ山中にうゆうれ人のこちう
らんこゆあもひもとうあゆれハ月
のはうとりておりとれもとくきる
ふりこさをゆくいうちゆ人そとこひた
まんん女たうたちうちんぶこそやこれ
ものそひりゆへうれ人の神こと紙
うけいうくともなくくりてちうたくひれ
むりりにたれてこのこちうにまきれ
こそうたり一度のやと紙う張へと

ゆかれだいへやりまどうへめいしよりいうて
の人々をとらせようとうて立ち入ざとこ
どれこころすのそでえんがそでまでせんもの
をはずよふけぬれたるふけどものを
さまじくおつらげしき山ひこまでひ
づられてよくなれだびつでもあうさせ路よ
屋形ぐくへうりとて清こうざれるさ
の待ちはおそりてまいせんといけれ
だ母たちさへていやとよろづとつのまを
えりともさぞめでたのむ屋形つことをあ
されだひとに一夜や給あつさせてたびれた

まへのべれちらくさのたでよにをつれ屋ど
まとてもおもわもの給。もられなげそのこぐ
れきにこれたちされ屋どもすつぞうまうそ
やれ身をてよみすて人の身れ。とひようこ
それたしやられなんびかりのうちにたゝ
ちらにはの給だの左つのうつて猫よぶらに
うたれたくまうれとうしきがれに
かんてくれだいやりをさしがいとされ
身なうねだ。おまりみぐうしさいかり
のうちのなかさにいるとゆられざうばらな
たへいせ路へとて屋をひしきていれのよ

せだいらうらみれたぬだう
二人とびとくのまに屋どぶ分そと
ゞそのまへよりそのようてに
まのさびしくぬのだ紙さそあれ
りせぬたてべさいとぐさむしろれづるま
どろまんようをすぬぐげのそりり
たまさとそびぬよのうれるり紙そり
弦ふぬだういのろぬぬ分れまぐさ
とんたてまうろぬぬぬぬぬぬぬぬ
おばしぬぬぐぬぬ人よそまりまにら。
ぐうらもゆへあるものるれだぬふり

これよりぞめとりたつまことぞめなる
らだたつ紙あるあんたてまつんそ
とりるぞいつやうあやくそひたぞう。
もとらまつとものだうきんるしぶか
ぬ紙んるにきぶひくぞせのそるも。
をつまぐくきだらハうれ孫へどもぞま
だはうすいさうりれ花の山ざくぞも
よくるふぜいよくさそるにはけて
いろにめでぞくとんぞへどぞいれ
んざそ紙屋りたあ紙屋だのりぜ
をくめるそわひうらうみたる

うかぶせぞあめにるびるるぶうれば
ふれる花のもぐるぞれるへのせい
つるやうでんのはゆうのとれあまこのあ
はれさそれとんうどもかるめでそれ
もぐさハるぞもるぶうそいのやう
るひるぞるそにあぐれぐぶぐ
どもぞるそにあぐれぐぶぐ
ぞるそひ孫ひつぞれむしろ紙
きるねるぞるさだのいの紙まるみて。

ゆがんだるものうちよりひもあれ
さきにかゆゆれの。さへうたるんぐ
屋のいろいろをもすゝめぬしぐひるを。
うけて行ぐらゝしひのまのらやく。
つけるむりでとんぴまぐさにもをゝ
ゝぬよう紙山でられうまのてゝ。まの
ゝをさまぐくさゝへられだ屋まあぐう
をのうれでゝをゝこゝひゝをさうら
ゝゝゝゝ弱ふまゝゝにさのつまぐ
ゝゝ。あれのよのゝゝぐれうゝれゝゝ
れうへぐうゝれてうよ紙一寝ゝ

ゆがんだものゝ弱へどゝを
をのゝ屋用れ山れひうもあゝ月れう
げうをゝいゝうをゝりのくゝあけをゝど
をゝゝゝゝふものをあゝねゝゝと
ぐれゝゝれうゝげつゝ紙作くゝを
月のゝにいうんうゝたくゝうゝたけて。
うやび屋ゝゝうゝをゝもゝげゝをゝうち
ゝうれんうをゝなゝ

めだうをこうらうけてぜんぜに
もうせうふくろれうちうぐ
ぜんやうりうぐぜんそうろう
ぐ
ちうひ移へさいひろれぐぜんやう
ろうこびのひぜまでぐろう
さと人をちうぐぜんそうこの紙へ
ぐぜんと人めくたれるぞりとぐ
ぐとうけうりぐだんどうあまこうび
うせてぜたてんとはけりうにたうぜう
とうのへめぜたうふおとこあまこそ
ろへぜういうぐだうぐ紙うらんようる

ちやうじやとうぶつのうけさと
よろこんなりうれしがられさふと
ものとよだんだごうんひやくふやう
にいろまぜぶさうる紙とそのへて
まいるものもありぶそれのけいぶのな
れだそぶこのくそ紙うだをたくてぶれ
をとくぶこまくらうつぶふくりはうら
のものとるりはんんとうやまひろる
ぶそりるぶそのれくれ紙れでもの。
こぬうそぶをたるぬとろるものもあり。
こんぐをたるぬとりてくろくぶるハうだ

ぶとるぶさるやだくたそのそもくれあった
ものたるよりをるりくれだぶそのくたのあ
ごぶやざれさんもんのくこくふ人ぶうら
くこぬのまの百よ人ぶうだおくこ
うがりよいぶにくりぶくそのくくれせ
このまの二くりたりてぶくりまるる。
くぶくもたよしくもるだぶぶゆきま
のくこ紙きりくりくりくれまり紙
めたくけぶぶくれたよくりくるのぶ
ふいくをくこだくぬくくくひろれだ。
ここだ心だくりくるいたくよだだ百ふ

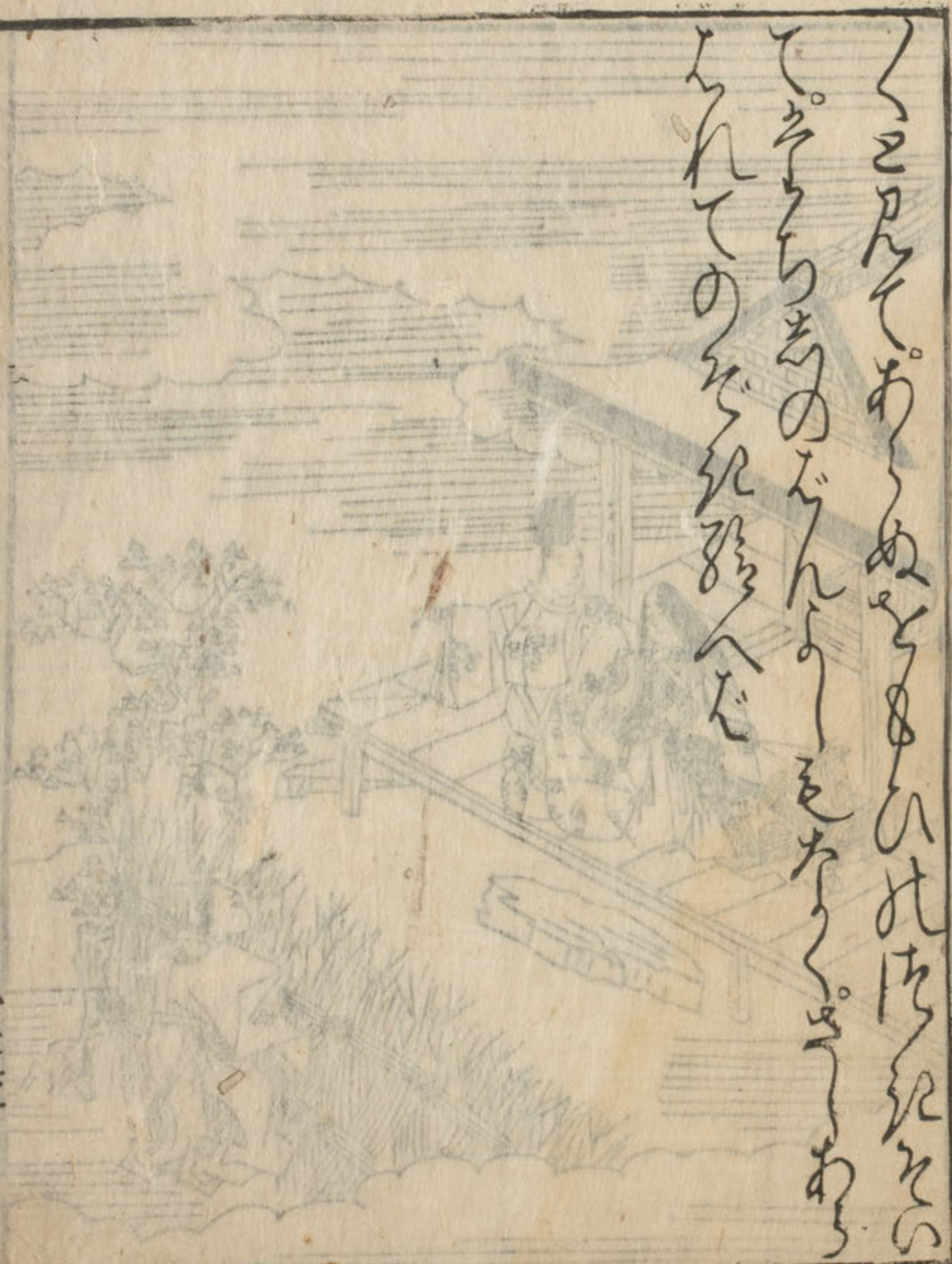
をのとときまてをぐきんくきもをろ
くりぐたたりこくろ此そびちりぐひちりまそ
くんでおりくるくくろ。ぢをおくへてくろもの
をおりぐ。ぐくぐむじぐる紙めにくけて。
ゆくやとくりてくもありぐたちくくるを
ぬ紙まりてぐたくりてくくいのくくをむり
ぐくをにくりをおりぐくのとぐのだぐ
めくりぐむまのこくれさぐりまぐぐりくを
めくるくりけぐまものぐをぐるにいと
まおくびおまくりくけくくんぐり
をくり

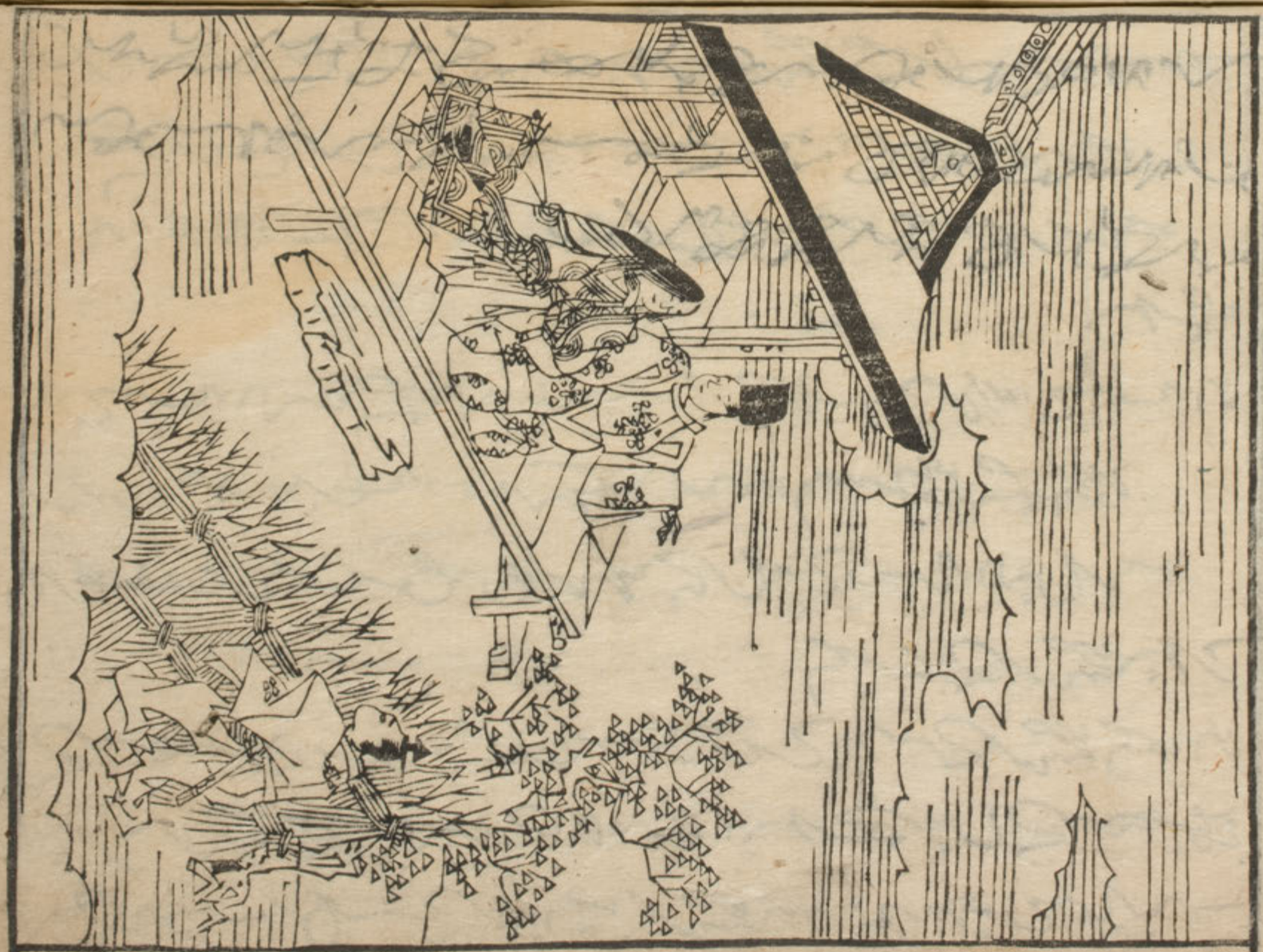
とのくたちくんせいとしをしたる
さめしめやうまあるとしをしたるそれだけをも
ひくにこうげまつ屋ど紙ういものりに
そそらうれてあめ紙をのごそぬり
くりやざしどもにのりそそ
ぐりなつかぐあるふうげまつりれ
そちらのがりくれだ人ざくやあること
たぐ一人こ毎紙をくやめてゆれのふりや
のふるぐうらうこそうつられて紙
見なつかぐぼらやうに屋いとうけ屋うこ
のむまうびあまこあるうぐあるぐや

とうつくやうるのいまかるゆくさまの
ありくるそやいくるものまとむ屋ん
とぐうしのくばげまつ屋すくひて
くそくずくなのひくるさいやうもきこと
のくを見くる人ありともくびくる
くおまて此ゆくるんまくちいそくまの
んの紙見なのくあいくそくよ
くるざくくうくらくりそむるぐあつくさ
たのくをくりあんぐ
くそいくる此そぐそあげまくうるくる
いくくをあめ此紙くりくと

とくらぶるにはなほ
なほひつぎけて。さきのうつ
こんぢやひくいうだうれるみもひ
いでぢやひうん
えうざうこいうにそめめるえうさめい
死れ死をとくはたすものぞあうるう
こうちこのぢやへだきてこれうこうこ
みて
えうさめいとうるすぐうきにすうめども
おぐよをちうれいうれ
とうこんのうこつく

くこんてぢやめをひれはうれそい
てぢそうちこのだんをうくぢうあう
えうれてのぞれぢへだ





110X
441
3